



この一年間、或いは短大時代の二年間で 自分は変わりましたか？



学長 小池 明

三月は区切り、過ぎた一年、特に卒業生は二年間を纏めて振り返っては如何でしょう。短大生活は勉強のみに非ずとはいえ、卒業、進級の為の勉強は基本です。では勉強、勉強の目的とは何か——勉強は課目、講義の理解からまず始まる。それなら「わかる、わかった」というのはどういうこと？

ソクラテスはこう言います。「わかるということは、それによって自分が変わることだ」と。歴史学者の阿部謹也は「自分が全く変わらないのなら、それはただ知ったというにすぎない。しかし、何かを知って、それによって自分が変わるのが、わかったということだ。何かを知ったことで「ああ、そうか」と思ったとき、実際に変わる可能性が出てくる。そう考えると、学問というのは非常に面白い」と。

短大での勉強を通して益々学問が好きになった人、もう充分、I'm fed up …と思う人、様々です。しかし、卒業して、云はばアク抜けた後に、学生時代に習ったことは実はこういうことだったんだと納得する経験を皆さんは将来、必ずする筈です。勉強を余りしなかった私ですらそういう思いを頻繁にしてきました。その時に、「理解した！」ということを経験できるのです。

「教育とは勉強したことが消えた後に何が残っているかが問題」という先哲の言葉に、私たちは畏れを感じつつ日々過ごしているのですが、先に述べたことを皆さんが実感したときこそ、まさに教員冥利に尽きるというものです。

「生きることは喜びなるかな、この一瞬を完全に生きるべし」

「青春はうるわし、されど過ぎ去る、楽しみてあれ明日は定めなきゆえ」

(ロレンツォ・ディ・メダイチ)



受信力と発信力

幼児教育学科学科長 町田 育弥

自身の学びをふりかえり、内容を整理し、考えをまとめ、自分の言葉、自分の方法で責任を持って発信すること、そして他者からのメッセージを謙虚かつ批判精神を忘れずに受けとめること。若いときにこの練習をすることはとても大切です。学科では昨年度から「実習報告会」「卒業研究発表会」を行ってその機会としましたが、まだまだ足りない。お膳立てされた単発のイベントにおいてだけではなく、いつもそういう意識を持って学び、他者と関われる学生を育てたいと思うのです。どうすればよいか？

新年度から「自然保育」「福祉社会」「芸術表現」の3コース制がいよいよスタート。その中にヒントはあるか？ 試行錯誤は続きます。



ある日、学内で

総合文化学科学科長 大橋 敦夫

廊下で書類を散乱してしまった！

と、その時、にこやかに話をしながら近づいてきた二人の学生が、あっという間に散らかった物を拾い集めてくれました。

両手を使って抱えていた書類は、大きさが不ぞろいで左右に飛び散っていました。また、重石代わりに使っていたメガネケースからは、老眼鏡も飛び出し、どこから手をつけてよいやらという状態でした。

が、少しの迷いもなく、手際よくメガネ・ケース・書類の順に、小生の手の上に載せてくれました。

「メガネは無事でしたよ」の一言ともに、廊下の向こうに立ち去った二人の姿は、輝いて見えました。

厳冬で、底冷えのする校舎内でしたが、寒さを忘れる出来事でした。

信州上田“やまほいくの里山”プロジェクト



幼児教育学科2年
中野西高校出身
徳竹 沙紀さん

自然保育の学びを深めようと、昨年度から年に4回「信州上田“やまほいくの里山”プロジェクト～上田女子短大の裏庭で遊ぼう」が始まりました。毎回、自然保育の実践家に現役保育者、一般の親子、私たち学生有志でつくる「やまほいく探検隊」のメンバー合わせて50人ほどが参加。本学の「うらやま」を会場に自然や友だちとふれあう様々なプログラムを展開しています。この活動では、自然と親しみながら夢中で遊ぶ子どもたちの発想力のすごさに驚かされ、「子どもの遊びに道具はいらない」ことに気づかされました。現役保育者ならではのアドバイスになりました。今春からお世話になる自然保育の実践園で保育活動に役立てたいと思います。



保育実習報告会

保育実習報告会が10月、北野講堂で開催されました。昨年から始まったこの取り組みは今年で2回目となり、幼児教育学科の全学生が出席するなか、保育実習Ⅱを終えた西澤美砂さん、宮田和花奈さん、村田万優さんの3名から報告がありました。責任実習として行った主活動の内容に考察を加えたものや、園の行事運営の様子から保育者の役割と連携について述べられたものなど、それぞれの発表から実習の充実ぶりをうかがうことができました。上田市内の3園からお呼びした園長先生方からはその場でアドバイスをいただくことができ、学生にとって良い学びの時間となりました。



附属幼稚園との遊びプロジェクト

幼児教育科1年が子どもとの関わり方を学ぶ授業の一つ。体育館に、7つのゼミがそれぞれ企画、準備してきた遊びのブースをつくり、招待した附属幼稚園の年長児たちに思い思いに遊んでもらいました。



幼児教育学科1年
上越総合技術高校出身
池田 美波さん

私たち「町田ゼミ」の13人は、穴から次々と出てくるワニをハンマーでたたくゲームセンターの定番「ワニワニパニック」にヒントを得て「おぼけパニック」を企画しました。ワニの代わりに、ぼけ猫や提灯おぼけ、フランケンシュタインなど5種類のおぼけを段ボールで作り、これを牛乳パックと新聞紙で作ったハンマーでたたいて撃退する遊びにしました。一番の収穫は、おぼけたちの出し入れをする学生と、たたく園児とが互いの表情を見ながらできたことです。園児と学生がともに笑顔で楽しむことの大切さを感じました。

第28回新春コンサート

1月、毎年恒例の新春コンサートが行われました。幼児教育学科1年による『幼教合唱団』の演奏からはじまり、ピアノ連弾、独奏、ソプラノ独唱、そして芸術コース（音楽）の学生とその卒業生と有志による『新春合唱団』の演奏など、バラエティに富んだプログラムで北野講堂が清々しい響きに包まれました。今年度で28回目を迎えるこのコンサートの様子はケーブルビジョンでも放映され、地域の皆さんにも広く親しまれています。



児童文化研究大会

12月9日（土）第40回研究大会が北野講堂で開催されました。今回は、白梅学園短期大学の花原幹夫先生をお迎えして、本学としては初めて造形をテーマに「子どもの表現（主に造形表現）の理解と援助について」講演をしていただきました。

本学幼児教育学科の全学生に加え一般の専門職の方も参加して、子どもたちの五感を使った遊びが造形に繋がることや、子どもと一緒に感じて遊ぶことのできる保育者になって欲しいとワークを交えてお話がありました。

日本自然保育学会

「自然保育」は森の幼稚園など「自然をベースにした幼児教育・保育」です。これに取り組んでいるのが「日本自然保育学会」です。事務局は上田女子短期大学にあります。第2回日本自然保育学会大会が海外や全国からの研究者、実践者を集めて昨年10月に上田女子短期大学で開かれました。自然保育に関する活発な議論や発表などが行われ、上田女子短期大学の学生も運営スタッフとして活躍し、大会を盛り上げました。



総合文化学科Topics

総合文化研究所・大会

平成29年7月1日（土）、上田女子短期大学総合文化研究所・大会（「信州弁の日」）が北野講堂で開催されました。趣旨は、信州方言を軸に、それぞれの地域の言葉と文化に親しむこと。県内出身学生に加え、新潟・群馬・静岡・徳島など、県外出身の学生による方言と地域の紹介がありました。

後半は、中国特別研究生による、中国語の方言と少数民族語の解説があり、さらに演劇サークルによる方言演劇が続き、最後は、ダンスサークルによる県歌「信濃の国」を鑑賞しました。



総合文化学科2年
婦恋高校出身
安濟 穂乃香さん

大会では、基調講演で自分たちが住む信州弁の現状を知るとともに、総合文化学科の学生10人がそれぞれの出身地域の言葉についての思いを発表。私は卒業研究で取り組み始めた婦恋と上田の方言の関係について中間発表しました。研究を通じての一番の収穫は、婦恋の方言を誇らしいと思えるようになり、今まで以上に婦恋を好きになれたことです。方言とあわせて婦恋をPRするよい機会でもありました。婦恋方言の語彙力をつけていきたいと思います。

古都研修

古都文化と近代都市に触れて

本年度11月21日（火）・22日（水）の2日間、鎌倉の歴史文化に触れ、横浜の商業文化施設に学ぶ研修旅行を実施しました。学生たちは、グループ毎に事前に研修計画を立て、鎌倉では鶴岡八幡宮や建長寺、高德院（大仏）を始め鎌倉文学館、図書館等、古都文化に触れました。小町通で食文化を堪能し、富士山と沈む夕日を背景に研修記念撮影後、横浜中華街にて会食。翌日は老舗ホテルニューグランドをあとに、各々みなとみらいの商業施設や博物館、公園等の文化施設に足を運び帰路に着きました。学生の研修計画→事前研修→研修旅行→振り返りを通じ、短期間ではありましたが研修後のレポートに密度の濃い旅行の充実度が表れていました。



事業所見学会

総合文化学科1年生を対象とした事業所見学会は、本年度は9月14日に天候にも恵まれ大型バス2台に分乗して実施致しました。入学後、初めての学科行事ですが、学生一人ひとりの職業意識・職業観を高めることを目的として、福祉法人施設、県立長野図書館、上田信用金庫等の5事業所を2つのコースに分かれて見学、説明していただきました。藤屋御本陣ではテーブルマナー研修を兼ねた昼食会において互いの親睦も深めることができましたものと思われれます。



卒研究発表会

- ◆ 未来に残る方言の考察
～宮田村の方言調査をもとに～
佐々木亜里さん（大橋ゼミ）
- ◆ RAPとJ-POPの世界
柳澤あかねさん（佐藤ゼミ）
- ◆ イラストで表現する和歌の魅力
山田里奈さん（中西ゼミ）
- ◆ 結婚披露宴における映像演出
～エンディングムービーの制作～
山本早織さん（増田ゼミ）



学海祭



幼児教育学科2年
塩尻志学館高校出身
青沼 郁絵さん

本学最大のイベント「学海祭」の実行委員長を務めました。「Change before you have to～革新せよ～」をテーマに掲げた今年度は、初のダンスイベントを企画、開催しました。1人でも多くの学生に参加してもらえるよう、中夜祭ではクラスダンスを行いました。翌日の一般公開では応募のあった小学生から一般の10組からなるダンスチームが、北野講堂のステージをエネルギーにまた華やかに盛り上げてくれました。たくさんの意見を集約していくのは大変でしたが、みんなから「楽しかった。ありがとう」と言葉をかけてもらい、やり遂げた達成感を味わうことができました。



小池学長と語ろう!

年間5回、「テーマ別」に学長を囲んで様々なことを語っています。平成29年度の最終回は「ボランティア活動学生編」でした。今年度ボランティアに取り組んだ学生たちが集まり、小池学長と語り合いました。それぞれのボランティア活動がポイントで紹介され、学生がその成果を発表し、学長からは「今後もぜひ自身のために継続してください」とのお話がありました。

(他4回…特待生編、ひとり暮らし学生編、学生寮編、日本自然保育学会運営スタッフ編)



北野講堂シリーズ



上田市内の小・中・高校の音楽チームが一堂に会し、吹奏楽、打楽器アンサンブル、弦楽合奏など様々な形態で競演。本学女声コーラスも交えて合同演奏した「ちいさがた 人と地のうた」は、地元で伝わる開闢譚「岩鼻の唐猫」の物語をわらべうたや祭礼など、伝承音楽の旋律に乗せて構成した町田教授の書き下ろし新作。練習では「合唱つきフルオーケストラ」初体験に戸惑いもありましたが、本番は見事な熱演で会場を盛り上げてくれました。



進路サポート室情報

進路サポート室は、学生の皆さんが希望した就職先から内定をいただくためだけにある部屋ではありません。

進路サポート室では社会人として行動できる習慣をつけてもらうためにルールを設けています。

期日厳守について、検定試験や各種資格取得試験の申込締切日と締め切り時間を設け、遅れると受付はしません。礼儀について、入退室についても挨拶が必要だと気付くように職員から先に挨拶を実践しています。また、言葉使いの悪い学生には指摘して意識してもらっています。計画性を持たせるために、履歴書の添削も通常では返却日を3日～1週間後として受付しています。

(ただし、応募の締め切りが迫っている場合はその限りではありません。今年も最短で3時間で履歴書を完成させて郵送した例もありました。) 内定先との連絡を怠っている学生に対しては先方の立場になって考える指導も行っています。

これらは、短時間では習慣づけられないため、学生からは苦言と思われるかもしれませんが「社会に出たら役立つよ」と心の中で嬉しながら学生と向きあっています。



OC学生スタッフ 大活躍!!

毎年開催しているオープンキャンパス。今年はイメージカラーをポップなピンクに統一。学生スタッフも笑顔が映える鮮やかなピンク色のポロシャツ姿で、明るく元気に活躍してくれました。来場する高校生や保護者の皆さんに、「本学のことをより深く伝えたい」、また「オープンキャンパスを満喫してほしい」、気持ちあふれる学生スタッフたちの率先した動きや気配りは、とても頼もしく感じま

した。学生スタッフの協力あってこそこのオープンキャンパス! 今年も成功裏に終わることができたのも学生スタッフのおかげです。新1、2年生の皆さん! オープンキャンパス2018もよろしくお祈りします。



資格報奨金授与者

■MOS試験マイクロソフト・オフィス・マスター 30,000円
総合文化学科2年(豊野高等専修学校出身) 山口 留以さん

■秘書技能検定2級 10,000円
総合文化学科2年(さくら国際高校出身) 田中 優里さん
総合文化学科2年(上田東高校出身) 玉川 里奈さん
総合文化学科2年(豊野高等専修学校出身) 上原 優希さん
総合文化学科2年(飯山高校出身) 水野 深優さん
総合文化学科2年(須坂東高校出身) 柳澤あかねさん
中国特別研究生 張 玉秋さん

■医療事務技能審査試験(医科)メディカルクラーク 10,000円
総合文化学科2年(長野南高校出身) 池田 邑奈さん
総合文化学科2年(飯山高校出身) 佐藤 伶奈さん

■MOS試験3科目 10,000円
総合文化学科1年(岩村田高校出身) 清水 鈴夏さん
総合文化学科1年(岩村田高校出身) 矢野 萌華さん
総合文化学科1年(文化学園長野高校出身) 藤森 ななさん



interview

総合文化学科2年(豊野高等専修学校出身)
山口 留以さん

「MOSマスター」は、Microsoft Officeを総合的に使いこなすことができるという公式な証明です。1年生のときにこの資格を得るための授業を選択。期末試験の科目数を減らせることがモチベーションになって挑戦し、合格できました。「オフィスマスター」の取得は、目標に向かって継続して頑張った点が、就職活動で有利なアピールポイントになりました。卒論の作成はもちろん将来必ず役立つスキルなので、空いた時間を活用して勉強していくことをおすすめします。

編集後記

この冬は記録的な寒波で厳しい寒さが続きましたが、ようやく春めいた日差しを感じるようになりました。卒業する皆さんは、いよいよ自分の夢に向かって羽ばたく時です。体を大切に大いに活躍してください。時には短大へ戻って近況を知らせてくださいね! (塚田)



学校法人 北野学園

上田女子短期大学

幼児教育学科 / 総合文化学科



上田女子短期大学通信のバックナンバーはこちら

〒386-1214 長野県上田市下之郷E2620 TEL0268-38-2352代 FAX0268-38-7315 E-mail adoffice@uedawjc.ac.jp
入試事務室 0120-375901 <http://www.uedawjc.ac.jp>